

平成22年度

事業及び収支状況報告書



財団法人 国際交通安全学会

平成22年度第37期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の事業活動について、次の通り報告いたします。

平成23年3月31日

財団法人 国際交通安全学会
会 長 小 口 泰 平

目 次

平成22年度事業活動の概況	1
I 主たる会議	3
1. 評議員会	3
2. 理事会	3
3. 最初の評議員選定委員会	4
4. 企画調整委員会	4
II 研究調査事業	6
1. 概要	6
2. 平成21年度研究調査報告会	6
3. 平成22年度研究調査内部報告会	7
4. 研究調査部会企画委員会	7
研究調査活動	
1) <H2290プロジェクト> (継続) ドライバーの感情特性と運転行動への影響 ～感情コントロールのための教育プログラム開発を目指して～	8
2) <H2291プロジェクト> (継続) 新学際プロジェクト 超高齢化都市に要求される「移動の質」	9
3) <H2292プロジェクト> (継続) 安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究	10
4) <H2293プロジェクト> (継続) 子どもから高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究	12
5) <H2294プロジェクト> (新規) アクセルとブレーキの踏み違いエラーの原因分析と心理学的・工学的対策の提案	13
6) <H2295プロジェクト> (新規) 交通安全と交通取締りに関する基礎的研究	14
7) <H2296プロジェクト> (新規) 「交通戦争」への取り組み ～途上国に貢献しうる日本の経験と知見～	15
8) <H2297プロジェクト> (新規) 我が国ニュータウン交通計画技術の評価に関する研究:東アジアのニュータウン開発への技術移転の観点から	17
9) <H2298プロジェクト> (新規) 地域公共交通と連携した包括的な生活保障のしくみづくりに関する研究	18

Ⅲ シンポジウム事業	19
1. IATSSトーク	19
2. IATSSトーク・シンポジウム	19
3. シンポジウム部会企画委員会	19
Ⅳ 広報及び出版事業	20
1. 広報出版部会学会誌編集委員会	20
2. 広報出版部会英文論文集編集委員会	21
Ⅴ 褒賞及び助成事業	23
1. 第31回（平成21年度）国際交通安全学会賞贈呈式	23
2. 褒賞助成部会企画委員会	23
第32回（平成22年度）国際交通安全学会賞	25
Ⅵ 国際交流事業	27
1. 海外招待会員（Overseas Invited Member）・海外名誉顧問（Overseas Fellow） 制度の運営	27
2. 国際交流部会企画委員会としての研究調査プロジェクト提案と実施（H2296）	27
3. 若手研究者を主体とする国際交流活動実施案の検討	27
4. ATRANS（Asian Transportation Research Society）活動の支援	27
5. 国際交流部会企画委員会	27
Ⅶ IATSS フォーラム事業	29
Ⅷ 刊行物一覧	33
Ⅸ その他（慶弔）	34
株式の保有等	35
許・認可及び登記事項	36
理事及び監事	37
評議員	38
貸借対照表	39
正味財産増減計算書〔要約版〕	40
正味財産増減計算書	41
財務諸表に対する注記	44
財産目録	45
収支計算書〔要約版〕	46
平成22年度収支計算書	47
収支計算書に対する注記	49
収支計算書	50
監査報告書	52

平成22年度事業活動の概況

今年度の事業目的は、寄附行為に定めるところに従い、理想的な交通社会の実現に寄与することとし、

- ①交通及びその安全に関する諸研究の充実
- ②交通行政及び交通教育施策への寄与
- ③学際性並びに国際性を特徴として、

先見性及び実際性を目指す活力ある事業運営を継承し、社会・経済環境を直視した適正な事業規模に基づき、次の項目に重点を置いて事業を展開した。

1. 当学会事業を効果的に運営するために、予定した収入を基に適正化した事業規模の中で、均衡のとれた事業運営を継続し、研究調査を重点事業とし、シンポジウム、広報出版、褒賞助成、国際交流の各事業と連携をとりながら、学際研究の場として事業を展開した。
2. IATSSフォーラム事業についても、より一層のプログラムの充実を図り、アセアン諸国の前途ある有為な人材の育成を目的に展開した。
3. 新しい公益法人に関する法律に適応した体制の整備と、早期公益認定取得の準備を進め、平成23年3月23日に、公益財団法人としての認定を受けた。

以上の年度方針に照らし実施した今年度の事業活動において、特記すべき事項について概要を報告する。

1. 研究調査事業

今年度は、自主研究9プロジェクトについて研究調査活動を行った。

この内、4テーマについては、研究調査報告会において公表する予定である。

更に、近年研究を完了した自主研究テーマの一般公開及びと海外での発表、また海外における交通関連諸施策の調査を行った。

2. シンポジウム事業

今年度は、本年度入会新会員の講演によるIATSSトークと、「これからの交通安全」を主題とした公開シンポジウムを開催した。

3. 広報出版事業

学会誌「IATSS Review」、英文論文集「IATSS RESEARCH」をそれぞれ発行した。

英文論文集「IATSS RESEARCH」については、本年度より電子出版化した。

4. 褒賞事業

今年度の国際交通安全学会賞は、業績部門2件、著作部門1件、論文部門1件、を決定した。

5. 国際交流事業

IATSS RESEARCHへの投稿、査読等、海外顧問制度の運用をすすめた。

また、タイにおけるATRANSの研究調査活動試行の支援を継続した。

6. IATSSフォーラム事業

今年度は、計画通り第47回IATSSフォーラムを開講し、東南アジアの9カ国から、17名の研修生が参加した。

I 主たる会議

1. 評議員会

◎第21回評議員会（H22. 5. 21）

経団連会館 5 階502会議室に於いて開催し、次の1）及び2）項については了解され、3）項については承認がされた。

- 1) 平成21年度事業報告書報告の件
- 2) 平成21年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、財産目録、及び収支計算書報告の件
- 3) 理事及び監事選任の件

◎第22回評議員会（H22. 11. 22）

経団連会館 5 階503会議室に於いて開催し、次の事項の承認がされた。

- 1) 公益財団法人国際交通安全学会定款の変更の案の件
- 2) 公益財団法人国際交通安全学会役員等報酬規程案の件

◎第23回評議員会（H23. 3. 18）

本法人会議室に於いて開催し、次の事項が了解された。

- 1) 平成23年度事業計画及び収支予算書報告の件

2. 理事会

◎第93回理事会（H22. 5. 21）

経団連会館 5 階502会議室に於いて開催し、次の事項が承認された。

- 1) 平成21年度事業報告書承認の件
- 2) 平成21年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、財産目録、及び収支計算書承認の件
- 3) 役職理事再任の件
- 4) 評議員選任の件
- 5) 顧問委嘱の件
- 6) 会員選任の件

◎第94回理事会（H22. 10. 29）

経団連会館 5 階504会議室に於いて開催し、次の事項が承認された。

- 1) 最初の評議員の選任方法の件
- 2) 最初の評議員選定委員会委員の件
- 3) 最初の評議員候補者の件

◎第95回理事会（H22. 11. 22）

経団連会館 5 階503会議室に於いて開催し、次の事項が承認された。

- 1) 公益財団法人国際交通安全学会定款の変更の案の件
- 2) 公益財団法人国際交通安全学会役員等報酬規程案の件
- 3) 顧問委嘱の件

◎第96回理事会 (H23. 3. 1)

本法人会議室に於いて開催し、次の事項が承認された。

- 1) 平成22年度国際交通安全学会賞受賞者決定の件

◎第97回理事会 (H23. 3. 18)

本法人会議室に於いて開催し、次の事項が承認された。

- 1) 平成23年度事業計画及び収支予算書承認の件
- 2) 顧問委嘱の件
- 3) 会員再任の件
- 4) 公益財団法人国際交通安全学会規程案の件

3. 最初の評議員選定委員会 (H22. 11. 5)

4. 企画調整委員会

◎第90回企画調整委員会 (H22. 4. 7)

本会会議室に於いて開催し、次の事項が審議された。

- 1) 平成22年 4 月 1 日付IATSSフォーラム部会新設の件
- 2) 平成22年度各部会活動計画案の件
- 3) I-TWOの今後の件
- 4) 平成22年度企画調整委員会事業計画の件

◎第91回企画調整委員会 (H22. 6. 16)

本会会議室に於いて開催し、次の事項が審議された。

- 1) I-TWO関連の件
- 2) 共催等ガイドラインの件
- 3) 社会実践への取り組みの試みの件
- 4) 交通関連諸施策の基礎調査の件
- 5) 平成22年度企画調整委員会年間計画の件

◎第92回企画調整委員会 (H22. 9. 14)

スズカサーキット交通教育センター会議室に於いて開催し、次の事項が審議された。

- 1) 新会員募集要項の件
- 2) 社会実践への取り組みの試みの進捗状況の件
- 3) 交通関連諸施策の基礎調査の進捗状況の件
- 4) 次年度以降の各部会活動検討内容の件
- 5) 次期委員会委員構成与件の件
- 6) 共催ガイドライン寄附行為整合再考文案の件

◎第93回企画調整委員会（H22. 11. 26）

本会会議室に於いて開催し、次の事項が審議された。

- 1) 新会員候補者選考の件
- 2) 各部会次年度計画案の件
- 3) IATSS公益法人移行計画進捗状況の件

◎第94回企画調整委員会（H23. 3. 2）

次の事項が同日付で書面表決された。

- 1) 新会員候補者の会長への上申内容確定の件
- 2) 海外顧問再任及び新任候補者の会長への上申内容確定の件
- 3) 再会ISSOT展開最終案承認の件

◎第95回企画調整委員会（H23. 3. 7）

本会会議室に於いて開催し、主題を平成23年度24年度委員への委員会事業の引継とし、次の事項が審議された。

- 1) 企画調整委員会機能の件
- 2) 組織、定款、規程等の件
- 3) 年間日程の件
- 4) 予算確認の件
- 5) 各部会課題の件

Ⅱ 研究調査事業

1. 概要

平成22年度は、次の9プロジェクトについて研究調査活動を行った。

<自主研究調査>

- 1) <H2290プロジェクト> (継続)
ドライバーの感情特性と運転行動への影響
～感情コントロールのための教育プログラム開発を目指して～
- 2) <H2291プロジェクト> (継続)
新学際プロジェクト
超高齢化都市に要求される「移動の質」
- 3) <H2292プロジェクト> (継続)
安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究
- 4) <H2293プロジェクト> (継続)
子どもから高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究
- 5) <H2294プロジェクト> (新規)
アクセルとブレーキの踏み違いエラーの原因分析と心理学的・工学的対策の提案
- 6) <H2295プロジェクト> (新規)
交通安全と交通取締りに関する基礎的研究
- 7) <H2296プロジェクト> (新規)
「交通戦争」への取り組み
～途上国に貢献しうる日本の経験と知見～
- 8) <H2297プロジェクト> (新規)
我が国ニュータウン交通計画技術の評価に関する研究：東アジアのニュータウン開発への技術移転の観点から
- 9) <H2298プロジェクト> (新規)
地域公共交通と連携した包括的な生活保障のしくみづくりに関する研究

・上記のうち、2)、3)、4)、6)は、研究調査報告会に於いて公表される予定である。これらの研究は、今年度末に於いて全て完了した。(来年度継続テーマについては、今年度計画分が完了)。

昨年度に引き続き、研究調査プロジェクトへの自主参加、プロジェクト情報の開示、予算の委員会による配分、「社会実践への取り組みの試み」「交通関連諸施策の基礎調査」の新事業を行い研究調査活動の活性化を図った。

2. 平成21年度研究調査報告会 (H22. 4. 16)

参加者：役員、評議員、顧問、会員、特別研究員、諸官庁、報道関係及び一般参加者計
240名

会場：経団連会館ホール

報告テーマ：

- ・ H184プロジェクトドライバーの感情特性と運転行動への影響
～感情コントロールのための教育プログラム開発を目指して～
- ・ H183プロジェクト安全・快適な都心歩行環境を支える駐車場のあり方研究
- ・ H186プロジェクト生活道路の総合研究
- ・ H188プロジェクト安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究

3. 平成22年度研究調査内部報告会（H23. 3. 5）

参加者：役員、評議員、顧問、会員および特別研究員計80名

会場：経団連会館4階ダイヤモンドルーム

報告テーマ：今年度実施の全プロジェクトテーマ

4. 研究調査部会企画委員会

◎第125回企画委員会（H22. 4. 8）

1) 平成22年度自主研究プロジェクト予算額の決定

◎第126回企画委員会（H22. 9. 3）

1) 平成22年度研究調査事業の追加案の提案と採択

◎第127回企画委員会（H22. 10. 15）

1) 平成22年度追加調査事業、社会貢献の試みと追加予算申請の決定

◎第128回企画委員会（H23. 3. 5）

1) 平成22年度研究調査報告会と海外発表テーマの決定

◎第129回企画委員会（H23. 3. 29）

1) 平成23年度研究プロジェクトの実施テーマと仮実施テーマの決定

研究調査部会企画委員会

委員長 久保田 尚

今井 猛嘉

土井 健司

藤岡 健彦

森本 章倫

蓮花 一己

1) ドライバーの感情特性と運転行動への影響 ～感情コントロールのための教育プログラム開発を目指して～ —H2290プロジェクト—

1. 研究目的と概要

本研究の目的は、運転中のストレス反応（焦り、イライラなどのネガティブ感情）に起因する事故を防止するため、感情コントロール技能を高めるための運転者教育法を確立することである。H21年度の研究では、「ストレス相互作用モデル」を理論的背景として試作した教育プログラムを用いて、配送業務の職業運転者を対象に教育を実施した。その結果、教育への参加が、参加者に自己の感情特性と運転への影響について、気づきをもたらすことが明らかになった。しかし、その気づきによる運転行動の変化や意識変化は持続性の点において十分ではなく、本年度は、持続的な教育効果をもたらすよう開発した教育プログラムを改善することを目的とした。さらに、本教育プログラムの公益性を高めるため、トレーナー育成のためのマニュアル作りなど、教育普及のための取り組みを行った。

- ①教育効果持続性と固定化を図る
- ②トレーナーの育成を目指した指導ツールの制作

2. 研究経過

- ◎第1回研究会 (H22.5.28 @仙台)
- ◎第2回研究会 (H22.7.9 @仙台)
- ◎第3回研究会 (H22.8.4 @仙台)
- ◎第4回研究会 (H22.9.13 @仙台)
- ◎第1回実験 (H22.9.27～28 @青森)
- ◎第2回実験 (H22.10.4～5 @青森)
- ◎第3回実験 (H22.10.18～19 @青森)
- ◎第4回実験 (H22.10.25～26 @青森)
- ◎第5回実験 (H22.11.15～16 @青森)
- ◎第5回研究会 (H22.11.19 @仙台)
- ◎第6回研究会 (H23.1.28 @仙台)
- ◎第7回研究会 (H23.2.28 @仙台)

3. プロジェクトメンバー

- PL. 小川 和久
- 太田 博雄
- 向井 希宏 (中京大学)
- 名古屋武一 (青森モータースクール)
- 野藤 智 (青森モータースクール)
- 鈴木 隆司 (レインボーモータースクール)

2) 新学際プロジェクト 超高齢化都市に要求される「移動の質」 —H2291プロジェクト—

1. 研究目的と概要

都市における移動の質を高めるには、高速移動を支えるファストモビリティとまちなかでの中低速移動を支えるスローモビリティとの階層的な構築が重要となる。とりわけ、超高齢社会においては、安全かつ快適なスローモビリティへのニーズが高まることが予想され、移動手段単体だけでなくそれを取り巻く道路環境の整備が不可欠である。当プロジェクトでは、移動の質に関する価値観変化を分析した後に、スローモビリティへのニーズを先取りした移動手段、道路空間、制度の整備の必要性について検討し、その足掛かりとなる社会実験を岐阜県美濃市と香川県高松市において実施した。

これらにより、超高齢化に向けて移動の価値観は安全・健康・環境（SHE）に向かうこと、さらにそうした価値観変化は道路ダイエット、速度抑制、パーソナルなスローな移動手段へのニーズを顕在化させることを明らかにした。また、1)「乗りやすい」より「降りやすい」、2) 風景に溶け込み街の魅力をアップする移動機器、3) モビリティ・ドレス、という基本設計コンセプトに基づくスローモビリティの提案を行った。

2. 研究経過

- ◎第1回研究会 (H22. 8. 3)
- ◎第2回研究会 (H22. 10. 7)
- ◎第3回研究会 (H22. 10. 26)
- ◎岐阜県美濃市において社会実験を実施 (H22. 11. 23～12. 11)
- ◎岐阜県美濃市においてワークショップを開催 (H22. 12. 2)
- ◎香川県高松市において社会実験を実施 (H23. 2. 20～3. 4)

3. プロジェクトメンバー

- PL. 土井 健司
- 太田 和博
- 喜多 秀行
- 長谷川孝明
- 林 良嗣
- 森田 朗
- 横山 利夫
- 松村みち子
- 紀伊 雅敦 (香川大学工学部准教授)
- 小林 成基 (NPO自転車活用推進研究会理事長)
- 杉山 郁夫 (株)日建設計シビル理事)
- 西田 純二 (株)社会システム総合研究所代表)

3) 安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究

—H2292プロジェクト—

1. 研究目的と概要

平面交差点では出会い頭や右折対直進などの交通事故が後を絶たない。信号機の設置だけでは根本的な解決策とならない場合も多く、また交通量の少ない平面交差点での信号機の設置は、遅れや環境負荷をもたらす。このような問題点に対して、欧米諸国では近年ラウンドアバウトを積極的に導入し、安全で低コスト・低環境負荷（エコ）な平面交差点を実現している。しかし、日本ではラウンドアバウトに関する認知度が低いことや説得力のある実データの蓄積不足から、実用化へのハードルは依然高い。そこで本研究では、日本での実用展開に向けて、行政機関と連携して実道実験を行い、これより様々な実データを収集することで、上記の障害を順次克服し、本格導入のための環境を整えることを目的とする。

今年度は、昨年度実施した試験場での模擬ラウンドアバウト設置によるデータの分析結果等の成果を踏まえ、飯田市吾妻町交差点において、地元自治体との協働により実道社会実験を実現した。本実験を通して、提案した改良について地元住民から多くの肯定的評価を得ることができたとともに、日本の実道におけるラウンドアバウトの安全性・円滑性に関する性能を実証することができた。

2. 研究経過

- ◎第1回研究会 (H22. 5. 26)
- ◎飯田市吾妻町交差点にて交通実態調査 (H22. 6. 2～3)
- ◎第2回研究会 (H22. 8. 17)
- ◎飯田市にて社会実験についての記者会見 (H22. 8. 27)
- ◎飯田市にて社会実験についての住民説明会 (H22. 9. 2～3)
- ◎飯田市吾妻町交差点にて交通流事前調査 (H22. 9. 28～30)
- ◎飯田市吾妻町交差点にて社会実験 (H22. 11. 1～12. 11)
- ◎第3回研究会 (H22. 11. 10)
- ◎飯田市吾妻町交差点にて第1回交通流事後調査 (H22. 11. 10～11)
- ◎札幌市にて北海道地方部道路の交差構造のあり方研究会 (H22. 11. 19)
- ◎飯田市吾妻町交差点にて社会実験に関するアンケート調査 (H22. 11. 24)
- ◎飯田市にて社会実験に関する住民意見交換会 (H22. 12. 1)
- ◎飯田市吾妻町交差点にて第2回交通流事後調査 (H22. 11. 1～2)
- ◎第4回研究会 (H22. 12. 21)
- ◎第5回研究会 (H23. 2. 22)
- ◎飯田市にて社会実験についての住民報告会 (H23. 3. 18)
- ◎その他、社会実験について飯田市・飯田警察署等関係機関と随時協議

3. プロジェクトメンバー

PL. 中村 英樹

大口 敬

尾崎 晴男 (東洋大学総合情報学部教授)

竹林 秀基 (国土交通省道路局環境安全課課長補佐)

淡中 泰雄 (国土交通省道路局企画課課長補佐)

浜岡 秀勝 (秋田大学工学資源学部准教授)

宗広 一徳 ((独)土木研究所寒地土木研究所主任研究員)

森田 綽之 (日本大学総合科学研究所教授)

米山 喜之 (株長大道路事業本部専門技師)

4) 子どもから高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究

—H2293プロジェクト—

1. 研究目的と概要

日本の自転車の事故率は欧米よりも高く、事故件数全体に対する比率も平成19年で2割を超え、自転車が加害者となる事故の増加が問題となっている。

本研究では年齢別負傷者数の構成率で7割に近い中学校児童を中心に、小学校から高校生を第一のターゲットにした、1) 自転車事故の利用者属性別の分析、2) 公道での自転車利用者の行動観察調査、3) ジャイロセンサによる行動分析、4) 利用者意識の質問紙調査を行い、これらを組み合わせることで、現在の自転車利用者の心理行動特性と利用実態を明らかにする。

本年度は前年度の調査結果に基づき、中学生への教育プログラムを提示し、実際にコンテストなどを行った。また、高齢者の行動観察調査も行い免許の有無などにより行動に差が出ることを確認した。さらに保険制度や利用者の意識調査も行った。

2. 研究経過

- ◎第1回研究会 (H22. 5. 25)
- ◎第2回研究会 (H22. 7. 27)
- ◎奈良県高齢者自転車／歩行者行動観察調査 (H22. 10. 4)
- ◎鈴鹿中学生自転車教育 (H22. 10. 13)
- ◎第3回研究会 (H22. 11. 2)
- ◎鈴鹿中学生自転車技能コンテスト (H23. 2. 10)
- ◎第4回研究会 (H23. 2. 10)

3. プロジェクトメンバー

PL. 蓮花 一己

岸田 孝弥 (中京大学心理学部・教授)

鈴木 美緒 (東京工業大学大学院総合理工学研究科・助教)

多田 昌裕 (ATR・知識ロボティクス研究所・研究員)

中西 盟 (本田技研工業(株)安全運転普及本部・主幹)

舟渡 悦夫 (大同大学工学部・教授)

宮崎 光明 (本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロック・主幹)

向井 希宏 (中京大学心理学部・教授)

矢野 円郁 (中京大学心理学部・助教)

山本 俊行 (名古屋大学エコトピア科学研究所・教授)

5) アクセルとブレーキの踏み違いエラーの原因分析と心理学的・工学的対策の提案

—H2294プロジェクト—

1. 研究目的と概要

最近、アクセルとブレーキの踏み違いによる事故がしばしば報道され、その原因と対策について社会的関心が向けられつつある。しかし、この「踏み違いエラー」について、これまで十分な研究がなされているとは言えず、踏み違いエラーを誘発する要因とは何か、またどのような属性のドライバーが踏み違いエラーを起こしやすいのかという点は不明である。また、エラー防止のための適切な対策を提案できていない。そこで本研究ではこの踏み違いエラーへの有効な心理学的・工学的対策を提案するための第一歩として、このエラーが起こるメカニズムを心理学的側面、工学的側面から解明することを目的とする。本研究は事故実態の解明と、基礎心理学的実験による実験室内実験を主たる方法として行う。

2. 研究経過

- ◎第1回研究会 (H22. 4. 26)
- ◎第2回研究会 (H22. 6. 30)
- ◎第3回研究会 (H22. 9. 10)
- ◎第4回研究会 (H22. 12. 10)
- ◎第5回研究会 (H23. 2. 25)

3. プロジェクトメンバー

PL. 篠原 一光
呉 景龍
白石 修士
田久保宣晃
木村 貴彦 (関西福祉科学大学健康福祉学部)

6) 交通安全と交通取締りに関する基礎的研究

—H2295プロジェクト—

1. 研究目的と概要

道路交通法違反の対策として交通取締りが実施され、交通事故防止に大きな成果を挙げている。しかし、依然として交通ルールを守らないドライバーは後を絶たず、一斉取締りや罰則強化後は、短期的に交通事故が減るものの、時間が経つとまた増加してしまうといった傾向も伺える。交通法規を守らない危険な運転は、正常な交通流を乱し、大多数の善良なドライバーに対しても交通事故が起こりやすい環境を作り出してしまふ。安全な交通社会を形成するためには、安心して走行できる道路環境の整備に加えて、ドライバー自身のモラル向上や交通法規を遵守する社会の形成など、多面的なアプローチが必要である。

これまでに、より安全な道路構造への改良や信号機の設置などのハード整備が交通安全に与える影響については、多くの研究実績があり、それをふまえた対策が実施されている。しかし、交通ルールを遵守する環境形成に大きな効果がある交通取締りについては、いまだ十分な研究がなされていない。どのような交通取締りが、交通事故をどの程度減少させるかについての定量的な検討は不明瞭な点が多い。そこで、本研究の目的は、交通取締りと交通安全の関連性について、多岐にわたる専門家を交えて科学的に交通取締りの有効性を明らかにする。

2. 研究経過

- ◎第1回研究会既往研究紹介1 (H22. 5. 14)
- ◎第2回研究会既往研究紹介2 (H22. 6. 10)
- ◎第3回研究会抑止効果研究 (H22. 8. 2)
- ◎第4回研究会海外動向調査 (H22. 9. 28)
- ◎第5回研究会調査事例、データ分析 (H22. 12. 10)
- ◎第6回研究会とりまとめ (H23. 2. 21)

3. プロジェクトメンバー

PL. 森本 章倫
今井 猛嘉
加藤 一誠
松村 良之
西田 泰 (科学警察研究所交通科学部)
浜岡 秀勝 (秋田大学工学資源学部)

(オブザーバー)

中村振一郎 (警察庁交通局交通企画課課長補佐)
中島 淳 (警察庁交通局交通指導課課長補佐)
太田 広実 (警察庁交通局交通企画課係長)

7) 「交通戦争」への取り組み ～途上国に貢献しうる日本の経験と知見～ —H2296プロジェクト—

1. 研究目的と概要

現在の開発途上国と同じようにモータリゼーションが急速に進展し、交通事故の増加が大きな社会問題となっていた日本において、1970年からの9年間に交通事故死者数を半減できた事実に着目し、このときに日本で実施されたさまざまな取り組みを明らかにすることで、現在の開発途上国で取り組むべき課題を明らかにできるとの認識に立ち、活動を行った。

具体的には、1960年代、70年代の「交通戦争」といわれた時代に、第一線で活躍された専門家5名の方にインタビューを行い、その当時立案、実施された交通安全対策を、立案の背景、実施までの工夫や苦勞、解決できなかった課題なども含めて、掘り下げて伺い、その内容をオーラルヒストリーという形で取りまとめた。このインタビューでは、単に経験を整理するだけではなく、交通安全対策を進める上で本質的に重要な理念や政策を浮き彫りできるよう努めた。同時に、開発途上国での取り組みにすぐ役立つよう、メンバーが重要と思う事項をキーワードとして抜き出し、文献や統計資料などの調査結果も加えて、その解説を行った。また、このプロジェクトの取り組みを交通事故の増加が大きな問題となっているベトナムの首都ハノイの関係者に紹介し、適用の可能性と課題を伺い、整理の参考とした。

2. 研究経過

- ◎第1回研究会 (H22.5.11)
- ◎第2回研究会 (H22.6.24)
- ◎第3回研究会 (H22.7.26)
- ◎第4回研究会 (H22.9.6)
- ◎第5回研究会 (H22.9.30)
- ◎第6回研究会 (H22.10.28)
- ◎第7回研究会 (H22.12.8)
- ◎第8回研究会 (H23.1.6)
- ◎第9回研究会 (H23.1.21)
- ◎第10回研究会 (H23.2.16)
- ◎ベトナムハノイ市にて市政関係者より実態情報収集 (H23.2.24～27)

3. プロジェクトメンバー

PL. 福田 敦
一ノ瀬友博
加藤 一誠
白石 修士
関根 太郎

〈研究調査事業〉

中村 文彦

秋山 尚夫 (交通運用研究所代表)

木戸 伴雄 (交通アナリスト)

8) 「我が国ニュータウン交通計画技術の評価に関する研究」 ～東アジアのニュータウン開発への技術移転の観点から～ —H2297プロジェクト—

1. 研究目的と概要

我が国では大都市問題解決のために数多くのニュータウン（NT）開発を行っており、アジアの国々にとっては学ぶべき貴重な事例であるが、技術移転の観点から我が国のNT開発技術をレビューした研究はなく、今日的な課題（高齢者対策など）から総括した研究もない。本研究では、今日的な評価軸も加え、これから大規模NTを建設する中国とタイの都市開発に適用することを想定した評価を行っていく。

今年度は、過去のNT開発の分析と東京都市圏のNT開発に実際に関わられた諸先輩から聞き取りを行い、我が国のNT交通計画技術を取りまとめた。

また中国（上海）とタイ（バンコク）のNT政策・NT計画・交通特性について取りまとめ、我が国のニュータウン開発との類似点・相違点を分析した。

2. 研究経過

- ◎第1回研究会 (H22. 5. 7)
- ◎第2回研究会 (H22. 7. 7)
- ◎海外調査（上海） (H22. 9. 13)
- ◎海外調査（バンコク） (H22. 9. 18)
- ◎第3回研究会 (H22. 10. 8)
- ◎海外調査（バンコク） (H22. 11. 29)
- ◎第4回研究会 (H22. 12. 7)
- ◎第5回研究会 (H23. 1. 23)
- ◎第6回研究会 (H23. 2. 21)

3. プロジェクトメンバー

- PL. 岸井 隆幸
中村 文彦
福田 敦
大沢 昌玄（日本大学理工学部土木工学科専任講師）
木下 瑞夫（明星大学環境システム学科教授）
西浦 定継（明星大学環境システム学科教授）
日野 祐滋（日本モノレール協会専務理事）

9) 地域公共交通と連携した包括的な生活保障のしくみづくりに 関する研究

—H2298プロジェクト—

1. 研究目的と概要

過疎地域では、暮らしに必要な生活支援サービスを分野別・主体別に縦割りで供給するだけでなく、横断的な連携を図ることにより、より少ない財源やマンパワーで賄うことが可能となることが多い。そこで、本研究では、包括的生活保障システムという視座に基づいて、地域公共交通が貢献すべき範囲を明確にし、併せて公共交通サービスとその他の生活支援サービスや事業との効果的な連携を検討するための計画方法論を構築することを目的とする。

今年度は、まず、問題の全体像を把握するために、メンバーが問題意識を共有したうえで、各自の専門分野からアプローチし、それらを重ね合わせて整理をした。次に、過疎地域における活動の実態や生活支援サービスの利用実態を明らかにするためにアンケート・ヒアリング調査を実施した。その結果、公共交通の整備が住民の生活をかなりの程度支援しているが、単に公共交通サービスを提供すれば活動の機会が保障される訳ではなく、さまざまな理由で公共交通だけでは生活を支えることのできない住民がいることが明らかになった。今後は、どのような人に対してどのようなサービスを提供すれば維持可能な形で活動機会が保障できるか、その方法の具体化に向けて検討を進めたい。

2. 研究経過

- ◎第1回研究会 (H22. 8. 4)
- ◎第2回研究会 (H22. 9. 29)
- ◎第3回研究会 (H22. 11. 1)
- ◎第4回研究会 (H22. 12. 1)
- ◎岡山県真庭市にて普段の生活や外出に関する実態調査実施 (H22. 12. 22~24)
- ◎第5回研究会 (H23. 1. 24)
- ◎岡山県真庭市にて生活支援サービス提供調査実施 (H23. 2. 15)
- ◎第6回研究会 (H23. 3. 1)

3. プロジェクトメンバー

- PL. 喜多 秀行
- 一ノ瀬友博
- 加藤 一誠
- 井上 茂 (東京医科大学医学部講師)
- 後藤 玲子 (立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)
- 竹内 伝史 (岐阜大学名誉教授)
- 谷本 圭志 (鳥取大学大学院工学研究科准教授)
- 吉田 樹 (首都大学東京都市環境学部助教)

Ⅲ シンポジウム事業

1. IATSSトーク

◎第14回 (H22. 7. 16 東京・神保町学士会館)

講師：岩貞るみこ

演題：「車両安全と現実」

講師：斎藤誠

演題：「地方分権改革と道路交通行政」

講師：白石修士

演題：「走行安全と自動車技術の発達～技術開発の体験を通して見た過去と現在」

講師：永田潤子

演題：「ソーシャル・マーケティングと社会変革」

2. IATSSトーク・シンポジウム (H22. 11. 5 東京・神保町学士会館)

「これからの交通安全」と題し、近い将来の交通安全の方向性について、多方面の専門分野の方々にお集まり頂き、パネルディスカッションを行い議論を深めた。

パネリスト：井上 雄一 (東京医科大学教授)

岩貞るみこ (モータージャーナリスト)

久保田 尚 (埼玉大学大学院理工学研究科教授)

白石 修士 (本田技術研究所主任研究員)

田久保宣晃 (科学警察研究所交通科学第三研究室室長)

コーディネータ：谷川 武 (愛媛大学大学院医学系研究科教授)

3. シンポジウム部会企画委員会

◎第1回 (H22. 5. 25)

◎第2回 (H22. 7. 6)

◎第3回 (H22. 9. 1)

◎第4回 (H22. 10. 18)

◎第5回 (H22. 12. 21)

シンポジウム部会企画委員会

委員長 栗原 典善

田久保宣晃

谷川 武

IV 広報及び出版事業

定期刊行物としては、IATSS Review（国際交通安全学会誌）Vol. 35の1, 2, 3号およびIATSS RESEARCH（英文論文集）Vol. 34の1, 2号を発行した。

1. 学会誌（IATSS Review）編集委員会

1) IATSS Reviewの各号を以下の通り刊行した。

Vol. 35 No.1 特集「睡眠医学面からの交通安全対策」（H22. 6. 30）

睡眠時無呼吸症候群である場合、交通事故をおこす確率が3倍以上高くなります。しかしながら放置されている睡眠障害全体を考慮した時、交通事故のリスクはさらに高まること、また現在の睡眠医学・医療を有効に活用することによりリスク低減対策が可能であることから、睡眠医学の知見を国民により広く普及することが望まれています。

本特集においては、国内外の専門家により睡眠障害と交通安全に係わる諸問題の現状とその対策の方向性について示して頂くことを目的として企画した。

Vol. 35 No.2 特集「道路法制の新展開人間重視の道路創造を目指して」（H22. 8. 31）

道路行政の基本法である道路法に規定されている道路の機能は、もっぱら自動車等の通行である。つまり、不特定多数の車両や人々が通過できることが公共の利益に適うものであると考えていることになり、都市景観や環境破壊などのマイナスの効果は道路の公共性（公共の利益）との間で単に対立的な事象としてとらえられているに過ぎない。

本特集においては、法律学の観点を中心に、道路法の改正の必要性やその歴史的意義を整理するとともに、改正の方向性に関する論稿を集めることによって、交通経済学や土木工学とは異なる観点から道路政策を健闘する視点を提供することを目的とする。

Vol. 35 No.3 特集『日本の超高齢社会と交通』（H23. 2. 28）

日本の高齢化率（65歳以上）は、2005年に20%を超え世界一の超高齢化社会となっている。高齢ドライバーの増加に伴い、高齢ドライバーによる交通違反、交通事故も急増しており今後高齢者事故の社会問題が顕在化するの避けられない状況である。

このような超高齢化社会の到来に対して、国および地方の行政としても様々なコンパクトシティー政策を推進し、厳しい財政状況下においても、行政サービスの向上をめざして推進中である。本特集においては、日本の高齢化社会の到来に対して、過去、現在、将来に向けて街づくりの観点、くるま造りの観点、交通事故低減の観点等、様々な取り組みについて多角的な視点での取り組みを紹介することを目的とする。

2) 編集委員会の開催

◎第272回編集委員会（H22. 4. 9）

◎第273回編集委員会（H22. 11. 25）

IATSS Review編集委員会

委員長 藤井 聡
太田 和博
春日 伸予
篠原 一光
城山 英明
福山 敬
森本 章倫
横山 利夫

2. 英文論文集（IATSS RESEARCH）編集委員会

IATSS RESEARCHの特集テーマと発行日は、以下の通りである。

Vol. 34, No.1 特集「ICT and Safety」（H22. 7. 1）

Vol. 34, No.2 特集「The Effect of Safety Education in Transportation」（H23. 3. 1）

◎第132回編集委員会（H22. 4. 8）

- 1) 34-1号論文審査
- 2) 34-2号編集計画・依頼論文執筆者の検討

◎第133回編集委員会（H22. 6. 7）

- 1) 34-1号論文審査
- 2) 34-2号特集進捗状況
- 3) 電子化進捗状況

◎第134回編集委員会（H22. 8. 4）

- 1) 34-1号刊行状況
- 2) 34-2号特集進捗状況
- 3) 35-1号編集計画・特集テーマ検討
- 4) 電子投稿・審査システムデモンストレーション

◎第135回編集委員会（H22. 10. 5）

- 1) 34-2号論文審査
- 2) 35-1号編集計画・依頼論文執筆者の検討
- 3) 来期海外編集体制について
- 4) 電子化進捗状況

◎第136回編集委員会（H22. 11. 17）

- 1) 34-2号論文審査
- 2) 35-1号特集進捗状況
- 3) 来期海外編集体制について
- 4) 電子化進捗状況

◎第137回編集委員会（H23. 1. 19）

- 1) 34-2号刊行状況
- 2) 35-1号特集進捗状況・論文審査
- 3) 35-2号編集計画・特集テーマの検討
- 4) 電子投稿・審査システム操作デモンストレーション

◎第138回編集委員会（H23. 3. 3）

- 1) 34-2号刊行状況
- 2) 35-1号論文審査
- 3) 35-2号編集計画・依頼論文執筆者の検討

英文論文集編集委員会

委員長 中村 文彦
委員 呉 景龍
小川 和久
加藤 一誠
加藤 晋
木林 和彦
関根 太郎

海外編集委員

Manfred Boltze（ドイツ、ダルムシュタット工科大学教授）
Burkhard E. Horn（フランス、World Road Safety Institute会長）
Peter Jones（イギリス、ロンドン大学教授）
Adib Kanafani（アメリカ、カリフォルニア大学教授）
Esko Keskinen（フィンランド、トゥルク大学名誉教授）
Soon-Chul Lee（韓国、忠北大学教授）
Martin E.H. Lee-Gosselin（カナダ、ラバル大学名誉教授）
Murray Mackay（イギリス、バーミンガム大学名誉教授）
Jean-Pierre Orfeuil（フランス、パリ大学教授）
Ram M. Pendyala（アメリカ、アリゾナ州立大学教授）

V 褒賞及び助成事業

今年度は、第31回国際交通安全学会賞の贈呈式を行うとともに、第32回国際交通安全学会賞として、業績部門2件、著作部門1件、論文部門1件の受賞を決定した。

1. 第31回（平成21年度）の国際交通安全学会賞贈呈式

平成22年4月16日（金）に経団連会館において、平成21年度研究調査報告会と合同で開催した。

2. 平成22年度褒賞助成部会企画委員会

◎第1回委員会（H22. 5. 20）

- 1) 褒賞委員会の活動の概要
- 2) 年間活動スケジュールについて
- 3) 「業績部門」の募集と、各部門の選考方法について
- 4) 「業績部門」候補の検討
- 5) 「著作部門」査読の割り振り
- 6) 「論文部門」審査および査読の割り振り

◎第2回委員会（H22. 7. 9）

- 1) 「業績部門」候補の検討と視察候補の決定（第1回視察計画）
- 2) 「著作部門」審査と査読の割り振り
- 3) 「論文部門」審査

◎第3回委員会（H22. 8. 27）

- 1) 「業績部門」候補の検討と視察候補の決定（第2回視察計画）
- 2) 「著作部門」審査と査読の割り振り
- 3) 「論文部門」審査

◎第4回委員会（H22. 11. 4）

- 1) 「著作部門」および「論文部門」審査

◎第1回視察（H22. 11. 19）

◎第2回視察（H22. 12. 23）

◎第5回委員会（H22. 12. 23）

- 1) 「業績部門」候補の決定
- 2) 「著作部門」および「論文部門」審査

◎第6回委員会（H23. 1. 12）

- 1) 「著作部門」および「論文部門」候補の決定
- 2) 会員信任投票、理事会、贈呈式の準備

◎会員信任投票（H23. 2. 21締切）：全候補信任

◎理事会（H23. 3. 1）：全候補承認

褒賞助成部会企画委員会

委員長 中村 英樹
喜多 秀行
武内 和彦
竹内 健蔵

第32回（平成22年度）国際交通安全学会賞

《業績部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、研究、施策の推進、普及、啓発、あるいは機器の開発、設備・施設の建設などに多大な業績をあげたものを対象に、過去3年以内に成果が顕著となった業績の中から選考される。

業績題目：地域の核としての能登空港

受賞者：能登空港利用促進協議会・能登空港利用促進同盟会

受賞理由：人口減少と高齢化が進む能登地域において、鉄道の廃止が進む中、平成15年に能登空港は開港した。地方空港を取り巻く環境は厳しく、何としても存続させたいという住民の強い思いから、精力的に基盤整備と利用促進が進められた。基盤整備では、自治体施設合築による地域拠点化、全国初の搭乗率保証制度、日本航空学園誘致など、利用促進では、魅力的な商品の提供や、自治体間で目標搭乗率達成を競う仕組みなど、多彩な取り組みが見られる。これにより、賑わいを見せる空港は地域の核としての位置づけを確立し、今後のインフラ整備に明確な方向性を与えた。また、それは、空港整備や地域振興等の部局の密接な連携体制と住民の地域を守るという連帯感により達成されたもので、他の地方自治体に多くの示唆と活力を与えていることは、交通社会の望ましい姿として高く評価されるものである。

業績題目：都心幹線街路における歴史的親水緑地空間の復元整備プロジェクト
—札幌市創成川通アンダーパス連続化事業—

受賞者：札幌市

受賞理由：創成川通は札幌市の交通の主軸で、歴史的遺産の創成川と共に市のシンボリック存在である。しかし、車社会の進展に伴う車道拡幅で景観が損なわれ、後に、混雑や環境の改善のため一部をアンダーパス化したが、結果的に市街地分断をもたらした。そこで、アンダーパス連続化による都心通過交通の全面地下化と、親水緑地空間の再整備が計画された。市民懇談会やワークショップで合意形成を図り、平成17年に「緑を感じる都心の街並み形成計画」を策定、平成21年3月に創成トンネルが完成し、平成23年3月に創成川公園が完成した。本事業は、都市空間整備のあり方を見直し、歴史的景観の保全と市民の憩いの場としての空間再生を果たしたという点で、市街地の魅力低下、交通混雑、環境問題を併せて解決する都市空間整備の方向性を明快に示すものであり、これをまた、全国に先駆けて実現した点でも高く評価されるものである。

《著作部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、過去2年間に初版として刊行された優れた著作・出版物の中から選考される。

著作表題：都市をつくる風景

—「場所」と「身体」をつなぐもの—

受賞者：中村 良夫（東京工業大学名誉教授）

受賞理由：本書は、破れ障子のような日本の風景は近代化の不徹底とし、生活環境を風景として意識化し、文化の多様性を保ちつつ、人間と環境との濃やかな結縁を掴み直す近代化の成熟を通じた町づくりを通じて、持続的な文明に貢献することを目指したものである。風景を地球と人の身体の触媒とし、21世紀日本の山水都市の転生を図るべきとするメッセージは明快で、持続社会に向かうべき道筋を明確に示している。市民自治による町づくりこそが持続社会の構築に貢献するという展望を与えるもので、次世代の都市づくり・国土づくりを担う人達に引き継ぐべき貴重なメッセージが込められたものとして、高く評価されるものである。

《論文部門》

当部門は、国際交通安全学会誌（IATSS Review）及び英文論文集（IATSS Research）に掲載された論文の中から選考される。

論文タイトル：プローブデータの分析に基づく救急車への緊急走行支援方策の検討

受賞者：南部 繁樹（株トラフィックプラス代表取締役）

吉田 傑（株本田技術研究所主任研究員）

赤羽 弘和（千葉工業大学教授）

受賞理由：本論文は、救急車の緊急走行支援方策を探るため、金沢市の救急車と一般車のプローブデータを統合分析することにより、救急車の緊急走行の実態と特徴を明らかにしたものである。膨大なデータを分析し、政策的インプリケーションも具体的に整理している。得られた知見は、救急車問題に悩む各地の実態分析に示唆を与えるもので、あらゆる地域での詳細な分析が期待される。深刻化する各地の救急車走行問題の解決に向け有意義な示唆を与えるものであり、本論文の価値は非常に高いと評価されるものである。

VI 国際交流事業

国際交流事業部会では、交通とその安全に関し、諸外国との学術・研究交流を行っている。平成22年度は、海外招待会員・海外名誉顧問制度の運営、国際交流部会企画委員会としてのプロジェクト提案と実施、及び若手研究者を対象とする国際交流活動の検討を行った。

1. 海外招待会員（Overseas Invited Member）・海外名誉顧問（Overseas Fellow）制度の運営

今期海外招待会員（12名）、海外名誉顧問（13名）のデータベースの改廃を行った。また、今期海外招待会員12名に、会員から新規に推薦のあった2名を併せた計14名を、来期メンバーの候補として企画調整委員会に提出した。

2. 国際交流部会企画委員会としての研究調査プロジェクト提案と実施

平成22年度プロジェクトテーマとして「『交通戦争』への取り組み―途上国に貢献する日本の経験と知見―」を提案・実施し、わが国のモータリゼーション期に交通安全対策に活躍されていた行政官・研究者の方々への聴き取り調査を行った。また、これを基に「インタビュー・キーワード集」を作成し、あわせて途上国の交通安全施策の参考に供するための基礎資料を作成した。

3. 若手研究者を主体とする国際交流活動実施案の検討

若手研究者ならびに大学院生のメンバーが活動の主体（コミティー）となって討議するワークショップやシンポジウムの今後のあり方について、これまで実施されてきたISSOT、I-TWOの実績を踏まえて検討を行った。

4. ATRANS（Asian Transportation Research Society）活動の支援

本年度も引き続き活動実施のための事務局支援を行った。現地では設立4年目を迎え、年間活動も定着し、研究調査委員会・シンポジウム委員会・編集委員会を中心に活発に活動している。

5. 国際交流部会企画委員会

◎第1回委員会（H22. 5. 25）

- 1) 国際交流部会企画委員会活動経緯ご報告
- 2) 今年度活動計画について

◎第2回委員会（H22. 7. 5）

- 1) 若手研究者を主体とする国際交流活動の検討

◎第3回委員会（H22. 9. 8）

- 1) 海外招待会員新規募集の検討

2) 若手研究者を主体とする国際交流活動の検討

◎第4回委員会 (H23. 2. 8)

1) 来年度海外招待会員就任状況の報告

2) 若手を主体とする国際交流活動の検討

国際交流部会企画委員会

委員長 福田 敦

一ノ瀬友博

加藤 一誠

白石 修士

関根 太郎

Ⅶ IATSSフォーラム事業

アセアン諸国の若い有為な人材を、日本に55日間招請し、アセアン諸国と日本が直面している現在の課題の学習観察を通じて、各参加国のこれからの国づくりに貢献してもらおうという国際交流を踏まえた研究調査事業である。今年度は、第47回のIATSSフォーラムを開催した。

事業概要は、以下のとおりである。

1) 第47回IATSSフォーラム

・期 間 第47回 平成22年9月20日～11月15日 17名（男9名、女8名）

・国 名

カンボジア	2名
インドネシア	2名
ラオス	2名
マレーシア	2名
ミャンマー	2名
フィリピン	1名
シンガポール	2名
タイ	2名
ベトナム	2名
計	17名

・職 業

行政機関	6名
学校関係	3名
民間企業	8名

2) 研修プログラム

"Thinking and Learning Together"を基本に、アセアンと日本の現在の課題を広く取り上げた研修を行う。

- ①各分野の専門家を講師としたディスカッション主体のセミナー
- ②研究課題に対する多角的、論理的な考え方、解決策立案手法を習得するグループ研究
- ③日本とアセアン、及びアセアン諸国間の相互理解を目指した体験学習と交流イベント

3) IATSSフォーラム部会

IATSSフォーラム実行委員会／IATSSフォーラムプログラム委員会

第74回実行委員会／第35回プログラム委員会合同開催（H22. 6. 27）

1. 2010年度事業計画
2. 第47回審査結果報告/同窓会開催報告
3. 第47回フォーラム計画承認

第75回実行委員会／第36回プログラム委員会合同開催（H22. 8. 29）

1. 第48回研修生二次選考

第76回実行委員会／第37回プログラム委員会合同開催（H22. 12. 25）

1. 2010年度事業報告
2. 2011年度事業計画決定
3. 第47回IATSSフォーラム実施報告&第48回IATSSフォーラム計画決定

IATSSフォーラム実行委員会

委員長 喜多 秀行
委員 福田 敦

IATSSフォーラムプログラム委員会

委員長 福田 敦
委員 加藤 一誠
委員 永田 潤子

4) 現地委員会

- ・現地委員会活動及びフォーラム研修生の選考審査・決定

◎IATSSフォーラムカンボジア委員会

第11回委員会（H22. 4. 26）

委員長（代理）Mr. Sau Sisovanna（ソクアン副首相担当官）
委員 Hang Chan Thon（プノンペン大学）（事務局兼任）
Ms. Leak（IATSSフォーラムカンボジア同窓生）
Mr. Meng（IATSSフォーラムカンボジア同窓生）
オブザーバー 鎌田 康彦（在カンボジア日本国大使館一等書記官）

◎IATSSフォーラムインドネシア委員会

第26回委員会（H22. 4. 24）

委員長 Ridwan Gunawan（前インドネシアモーターサイクル協会会長）
委員 Suprapti Sumarmo Markam（インドネシア大学教授）
Devi Femina（IATSSフォーラムインドネシア同窓会会長）
オブザーバー Kazuki Hamada（在インドネシア日本大使館二等書記官）
事務局 Susana Rosalia N.（IATSSフォーラムインドネシア事務局）

◎IATSSフォーラムラオス委員会

第12回委員会 (H22. 5. 5)

- 委員長 Alounsay Sounalat (ラオス人民革命青年連合内閣副長官)
副委員長 Soukata Vichit (環境保全省事務局長)
Thanouvan VONGMANY (IATSSフォーラムインドネシア同窓会)
アドバイザー Thanousone Thayarath (ニューチップセン販売部) (代理出席)
事務局 Vanpheng Khounbolay (IATSSフォーラムラオス事務局)

◎IATSSフォーラムマレーシア委員会

第27回委員会 (H22. 4. 22)

- 委員長 Ahmad Nawawi Hj Ayob (マラヤ大学生物学研究所、名誉教授)
副委員長 Ungku A. Aziz (マラヤ大学、名誉教授)
委員 Ms. Saraya Abdi (代理出席)
Encik FareenShazli (IATSSフォーラムマレーシア同窓会会長)
オブザーバー 深堀 直人 (在マレーシア日本国大使館一等書記官)
事務局 Violet Fernando (IATSSフォーラムマレーシア事務局)

◎IATSSフォーラムミャンマー委員会

第8回委員会 (H22. 5. 10)

- 委員長 Zaw MinWin (ミャンマー商工会議所連合会副会頭)
副委員長 Thaung Tin (ミャンマー商工会議所連合会副会頭)
委員 Maung Maung Lay (ミャンマー商工会議所連合会上級委員会メンバー、事務局長)
Tun Aung (ミャンマー商工会議所連合会上級委員会メンバー)
Sein Myint (ミャンマー工業会副会長)
Pwint San (ミャンマー工業会総書記) (事務局兼任)
オブザーバー 野村 博 (在ミャンマー日本国大使館二等書記官)
アドバイザー Kyaw Htin (ミャンマー商工会議所アドバイザー)

◎IATSSフォーラムフィリピン委員会

第20回委員会 (H22. 4. 30)

- 委員長 Fortunato T. de la Peña (科学技術省科学技術サービス局、次官)
委員 Flordeliza R. Mayari (マリキナスクール)
Ricardo G. Sigua (フィリピン大学交通研究センター准教授)
Ariel S.R. Yonzon (IATSSフォーラムフィリピン同窓会会長)
オブザーバー 高木 佑輔 (在フィリピン日本国大使館、専門調査員)

アドバイザー Mr. Joseph Oliver E. Tacorda (ホンダフィリピン) (代理出席)
事務局 Corlita G. Canilao (IATSSフォーラムフィリピン事務局)

◎IATSSフォーラムシンガポール委員会

第24回委員会 (H22. 5. 3)

委員長 George Abraham (GAグループLtd.会長兼代表取締役)
委員 Lin Zhiqiang (公共サービス局上級人材アナリスト) (代理出席)
Jedidiah Tan (シンガポール青少年協議会) (代理出席)
Eng Soh Seng (IATSSフォーラムシンガポール同窓会会長)
オブザーバー 千葉 広久 (在シンガポール日本国大使館広報文化センター所長)
事務局 OngWei Quan (IATSSフォーラムシンガポール事務局)
Kartini Binti Mohamed Suhaimi (IATSSフォーラムシンガポール事務局)

◎IATSSフォーラムタイ委員会

第27回委員会 (H22. 4. 28)

委員長 Thanate Dawasuwan (天然資源環境省環境品質振興局副部長) (代理出席)
委員 Anong Chanamool (天然資源環境省環境品質振興局局員) (代理出席)
オブザーバー 山本 慎一郎 (在タイ日本国大使館、二等書記官)
アドバイザー Pongdej Sriwachirapradit (エイシャンホンダモーター、業務部長)
事務局 Rarai Thiangtham (IATSSフォーラムタイ事務局)
Supawan Wongprayoon (IATSSフォーラムタイ事務局)
Bajaree SAGUANWONGSE (IATSSフォーラムタイ事務局)

◎IATSSフォーラムベトナム委員会

第15回委員会 (H22. 5. 8)

委員長 Le Bo Linh (科学技術環境委員会副会長)
委員 Pham Thu Hang (ベトナム商工会議所会長)
Do Minh Hoai (IATSSフォーラム同窓会会長)
オブザーバー 古戸井 健 (在ベトナム日本国大使館一等書記官)
事務局 Nguyen Van Trien (IATSSフォーラムベトナム事務局)

Ⅷ 刊行物一覧

□学会誌「IATSS Review」

Vol. 35, No. 1 (H22. 6. 30)

Vol. 35, No. 2 (H22. 8. 31)

Vol. 35, No. 3 (H23. 2. 28)

□英文論文集「IATSS RESEARCH」

Vol. 34, No. 1, 2010 (H22. 7. 1)

Vol. 34, No. 2, 2010 (H23. 3. 1)

□I A T S S フォーラム

IATSS FORUM REVIEWS AND REPORTS No.47 (H23. 3. 31)

Ⅸ その他（慶弔）

1. 弔事

◎逝去

・評議員

越 正毅 氏

平成22年5月18日にご逝去されました。

(享年75歳)

・顧問

三上 和幸 氏

平成22年8月14日にご逝去されました。

(享年76歳)

ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

株式の保有等

(平成23年 3月31日現在)

1. ホンダ開発株式会社

- ① 名称 ホンダ開発株式会社
- ② 事務所の所在地 埼玉県和光市本町5番39号
- ③ 資本金等 資本金 785 百万円
- ④ 事業内容 1) 不動産の売買、賃貸業、斡旋及び管理業
 2) 損害保険契約代理業
 3) 旅行業
 4) 土木、建設、設計、監理業
 5) タバコ、切手などの販売業
 6) 食堂、喫茶の経営
 7) スーパーマーケットの経営
 8) 揮発油、石油製品、液化石油ガス販売業
 9) 樹木、草花、種苗の栽培、仕入、販売及び管理業
 10) 宿泊、研修場の経営
- ⑤ 役員の数及び代表者の氏名
 役員数 6人
 代表者氏名 暮林 正善
- ⑥ 従業員の数 361人
- ⑦ 保有する株式等の数及び全株式等に占める割合
 780万株（持株比率 49.7%）
- ⑧ 保有する理由 当学会創設者から寄付されたもの
- ⑨ 株式の入手日 昭和60年2月25日
- ⑩ 当該企業との関係
 人事関係 なし
 資金関係 なし
 取引等 なし

許・認可及び登記事項

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 理事の変更登記 | 平成22年 6 月 3 日 |
| 2. 理事の変更登記 | 平成22年 8 月19日 |